

冠詞のすべてがわかる！

冠詞ルールブック

**HOW TO  
USE  
ENGLISH  
ARTICLES**



## そもそも冠詞って何ですか？

a/an、the、無冠詞の違いを  
マスターする 1 番の近道は  
「無冠詞で使う名詞を覚えること」。  
まずは無冠詞がどのようなものか  
感覚で身につけましょう ^^



「形が決まっていないもの」が無冠詞  
コーヒー (coffee) や牛乳 (milk) といっ  
た飲み物、また砂糖 (sugar) のような  
粉末や、bread (パン) といった食品は、  
形が決まっていません。不定形です。

このように「不定形なものの名詞が無冠詞になる」と感覚的に覚えましょう。

代表的な名詞をアルファベット順に紹介しますので、「こういうものが無冠詞になるんだ！」というイメージを植えつけてください。

### <ルール1：食品>

- bacon** (ベーコン)
- beef** (牛肉)
- bread** (パン)
- broccoli** (ブロッコリ)
- butter** (バター)
- cabbage** (キャベツ)
- candy** (キャンディ)
- cauliflower** (カリフラワー)



celery (セロリ)

cereal (シリアル)

cheese (チーズ)

chicken (鶏肉)

chocolate (チョコレート)

corn (コーン)

cream (クリーム)

fish (魚)

flour (小麦粉)

fruit (果物)

ice cream (アイスクリーム)

lettuce (レタス)

meat (肉)

pasta (パスタ)

rice (米)

salt (塩)



**spinach** (ほうれん草)

**sugar** (砂糖)

## <ルール2：飲み物・液体>

**beer** (ビール)

**coffee** (コーヒー)

**milk** (ミルク)

**oil** (油)

**tea** (茶)

**water** (水)

**wine** (ワイン)

**yogurt** (ヨーグルト)



## <ルール3：物質・気体>

**air** (空気)

**cement** (セメント)

- coal (石炭)
- dirt (ほこり、ふん)
- gasoline (ガソリン)



- gold (金)
- ice (氷)

- leather (革)
- paper (紙)



- petroleum (石油)
- plastic (プラスチック)
- rain (雨)

- rubber (ゴム)
- silver (銀)



- snow (雪)
- soap (石けん)

- steel (鋼)
- wood (材木)



- wool (毛糸)

## <ルール4：抽象的な概念・神仏>

- advice (忠告)
- anger (怒り)
- beauty (美)
- biology (生物学)
- confidence (信頼)
- courage (勇気)
- Devil (悪魔)
- employment (雇用)
- fun (楽しさ)
- God (神)
- happiness (幸福)
- health (健康)
- Heaven (天)
- Hell (地獄)
- honesty (正直)
- information (情報)



intelligence (知性)

knowledge (知識)

Lord (主)

love (愛)

news (ニュース)

poetry (詩)

pollution (汚染)

poverty (貧困)

research (研究)

satisfaction (満足)

scenery (風景)

traffic (交通)

transportation (輸送)

truth (真実)

violence (暴力)

wealth (富)

weather (天気)





## <ルール5：個別ではなく全体でイメージするもの>

- clothing (洋服)
- equipment (備品)
- furniture (家具)
- homework (宿題)
- jewelry (宝石)
- luggage (荷物)
- lumber (材木)
- machinery (機械)
- mail (郵便)
- money (金銭)
- work (仕事)



## <ルール6：固有名詞（国や地理名 教科 曜日 食事などを含む）>

・国や都市名

**America**（アメリカ）

**Canada**（カナダ）

**Tokyo**（東京）

**New York**（ニューヨーク）



・道路名

**Hollywood Blvd.**

（ハリウッド・ブルバード）

**Main St.**（メインストリート）

・湖や港の名前

**Lake Michigan**

（ミシガン湖）

**Lake Biwa**（びわ湖）

**New York Harbor**

（ニューヨーク港）



・ 山の名前

**Mount Everest** (エベレスト)

**Mount Kilimanjaro**

(キリマンジャロ)

**Mount McKinley** (マッキンリー)

・ 大陸や島の名前

**Asia** (アジア)

**Europe** (ヨーロッパ)

**North America** (北アメリカ)

**Easter Island** (イースター島)

**Fiji Islands** (フィジー諸島)

・ 教科やスポーツの名前

**mathematics** (数学)

**history** (歴史)

**tennis** (テニス)

**soccer** (サッカー)



・月や曜日、季節、休日などの名前

**January** (1月)

**Sunday** (日曜日)

**summer** (夏)

**Christmas** (クリスマス)



・食事の名称

**breakfast** (朝食)

**lunch** (昼食)

**dinner** (夕食)



### <ルール7：慣用句で使われる場合>

**after school** (放課後)

**be at church** (礼拝中)

**by air** (飛行機で) など…

このような、ルール1～7の「無冠詞の感覚」を身につけましょう。

## ■「長い説明をまとめる」のが 定冠詞の the

次は定冠詞 **the** です！

ネイティブは、「長い説明をまとめる  
ために定冠詞の the をつける」ようです。

「銀河系にあまたある恒星の1つである、私たちが見ているあの太陽」が **the sun** と言えばみんなわかるように、長い説明をまとめて「あの◎◎」と限定するために **the** をつけます。



ではネイティブは、どうやって感覚的に **the** をつけているのでしょうか？

それは**習慣**です。

子供の頃から **Mississippi River** では

なく **the Mississippi River** (ミシシッピ川)、**Rockies** ではなく **the Rockies** (ロッキー山脈) と「冠詞と名詞をセットで覚える」よう習慣づけられているからです。

「あれ、固有名詞は無冠詞では？」と思うかもしれませんが、実はここに **the** の奥深さが関係します。

たとえば山は、富士山のように1つひとつの（個体として数えられる）場合、無冠詞ですが、山脈のように連なって（個体のようには数えられない）場合、**the** で長い説明をまとめる必要があります。

そのため「スイスやオーストリア、ドイツなどにまたがるモンブラン山やマッターホルン山を含む山脈」といえば **the Alps** (アルプス山脈) です。

このように、さまざまな説明ができますが、ネイティブはそれをいちいち覚えているわけではありません。小さい頃からの習慣で、感覚的に使い分けます。

では、日本人の皆さんはどうすればいいか？ **口に覚えさせればいい**のです。

**「習うより慣れよ」**、さあ、繰り返し声に出して「定冠詞の感覚」を身につけましょう！

## **<ルール1：数多くある中の1つを表す固有名詞>**

・川や海の名前

**the Nile** (ナイル川)

**the Shinano** (信濃川)

**the Mississippi River**



(ミシシッピ川)

**the Mediterranean** (地中海)

**the Atlantic Ocean** (大西洋)

・砂漠・湾・半島・列島などの名前

**the Sahara Desert** (サハラ砂漠)

**the Persian Gulf** (ペルシア湾)

**the Iberian Peninsula**

(イベリア半島)

**the Arabian Peninsula**

(アラビア半島)



**the Hawaiian Islands**

(ハワイ諸島)

・集合的な名称の山 (山脈)、森の名前

**the Alps** (アルプス山脈)

**the Rockies** (ロッキー山脈)

・地理学的な名称や地球の極点

**the Equator** (赤道)



**the North Pole** (北極)

・季節を表す名詞

**the spring term** (春学期)

・楽器名 (**play** や **like** などの目的語として用いることが多い)

**(play) the piano/guitar**

(ピアノ・ギターを弾く)

・ビルや官公庁・公共施設・大学名など

**the White House** (ホワイトハウス)

**The University of Tokyo** (東京大学)

・新聞・雑誌名

**The New York Times**

(ニューヨークタイムズ)



**The Sun** (ザ・サン)

※新聞や雑誌の発行会社や組織名の前に **the** が置かれる場合、それが大文字か小文字かは、その組織が決めること。会社の **HP** などで確認するといいでしょ。

- ・ 集合体としての国を表す場合
  - the Philippines** (フィリピン)
  - the United States** (アメリカ合衆国)
- ・ 法律・原理・理論などの名称
  - the Pythagorean Theorem**  
(ピタゴラスの定理)
- ・ 組織名
  - the World Health Organization**  
(世界保健機関)

**<ルール 2 : 「最上・一番・最後」  
を意味する形容詞につけて>**

- the top** (一番上の)
- the ultimate** (究極の)
- the final** (最後の)
- the biggest** (最大の)
-

<ルール 3 : 「唯一 独占」を意味する形容詞・名詞につけて>

- the only one (唯一)
- the single survivor (唯一の生存者)
- the Almighty (全能の神)
- the One and Only (神)

<ルール 4 : 天候などを表す名詞が主語となる場合>

- The wind blows. (風が吹く)
- The sky is blue. (空は青い)

<ルール 5 : 「…年代 世紀」を表す場合>

- in the 60s (60 年代)
- the 21st century (21 世紀)

## <ルール6：抽象的な形容詞などにつけて>

**the unexpected** (予期せぬ出来事)  
**the old** (老いた人びと)

## <ルール7：強調的な意味で>

**the man** (最高の男)

**the King of Pop** (ポップの王様)

**the poet Byron** (詩人バイロン)

## <ルール7：慣用句で使われる場合>

**in the morning** (午前中)

**in the extreme** (極端に)

**hit ... on the cheek** (…のほおを叩く)

などがあります。**the** のつく名詞を見たら、どれに当てはまるか考えるクセをつけると、ネイティブ感覚が養われます！

## ■「いくつか同じものがある内の1つ」が不定冠詞の a/an

「不定冠詞の a/an は、「いくつか同じものがある内の1つを表す」—— この「いくつか同じものがある内の1つ」という感覚が、とても大事です。

定冠詞と同じく、習慣的に不定冠詞がつく名詞があります。これもまた「不定冠詞をつかう傾向」をマスターすると理解しやすいです。大まかなルールをまとめたので、感覚的に理解してください。

### <ルール1：「～につき、～ごとに」の意味になる場合>

- once a day (1日に1度)
- three times a week (1週間に3回)

<ルール2：総称的に「～というもの、すべての～」という意味になる場合>

- a dog (イヌというもの)
- a lion (ライオンというもの)

<ルール3：「少しはある」の意味になる場合（イディオムが多い）>

- a few (2、3の)
- a little (少し)
- a number of (たくさんの)

<ルール4：「同じ～」の意味になる場合（of a ... の形が多い）>

- of an age (同じ年の)
- of a mind (同じ心を持つ)
- of a kind (同じ種類の)

## <ルール5：様相を表す場合>

- a silent sea (静かな海)
- a shining sun (輝く太陽)
- a rolling stone (転がる石)

## <ルール6：「～家の人、～という人」の意味になる場合>

- an Obama (オバマ家の人)
- a Mr. Jones  
(ジョーンズさんという方)

## <ルール7：「～の作品・製品」の意味になる場合>

- a Warhol (ウォーホルの作品)
- an Apple (アップルの製品)
- a Toyota (トヨタ製品)

## <ルール 8 : 「～のようなもの」の意味になる場合>

a Beethoven (ベートーベンのような人 [偉大な音楽家])

## <ルール 9 : 専門職やある国の国民(…人)、宗教の信者を意味する場合>

- a doctor (医者)
- an American (アメリカ人)
- a Christian (キリスト教信者)

## <ルール 10 : 抽象名詞を普通の名詞として使う場合>

- speech (話) → a speech (演説)
- beauty (美) → a beauty (美人)



## <ルール 11：What で始まる感嘆文の場合>

What a lovely girl!

(なんてかわいい女の子！)

## <ルール 12：慣用句で使われる場合>

as a matter of fact (実を言うと)

once in a while (時々)

have a cold (風邪を引く)

あまりにルールが多いので混乱するかもしれませんが ^^、まずは**それぞれの冠詞のイメージを植えつけて**ください。

音読し、繰り返し「口に覚えさせる」内に、自然とネイティブ感覚で冠詞を使い分けられるようになります！